

2025 年 1 月 8 日
プレスリリース No.023-24

今年も1月20日から「久留女木 棚田の恵」が販売

「引佐耕作隊」が今年度収穫した米の試食会を実施します

静岡文化芸術大学「引佐耕作隊(いなさこうさくたい)」は、本学の学生有志によって結成され、2016 年から浜松市浜名区(旧北区)引佐町「久留女木の棚田」において耕作放棄地を活用し、米作りを行ってきました。引佐耕作隊は、米作りだけでなく収穫した米を販売することによって耕作放棄地を活用することで発揮される「棚田の多面的機能」について伝えています。さらに、販売収益を活動費に充てることで持続可能な活動とすることを目指しています。

2024 年 10 月 26、27 日に稲刈りを行い、脱穀、粳摺りを終え、収穫量は 133.5kg(品種:にこまる)でした。この米を 12 月下旬に精米し、パッケージ詰めを行いました。1 つ 300g 入り、約 400 個作ることが出来ました。これらを 1 月 20 日(月)から販売する予定です。

販売に先立ち、メンバーで試食会を行うこととなりました。報道機関の皆様には、是非当日の取材をお願いいたします。

■「試食会」概要

【日 時】2025 年 1 月 14 日(火)18:10～19:10

1月 16 日(木)14:40~15:40

【場 所】静岡文化芸術大学 北棟 8 階 文政資料室

【参加者】静岡文化芸術大学学生 4~6名

【「久留女木の棚田」について】



浜松市浜名区引佐町にある観音山の南西斜面(標高 250m 付近)に位置しています。総面積は 7.7ha、その中に約 800 枚の田んぼがあると言われ、その美しい景観は農林水産省の指定する「つなぐ棚田遺産(ポスト棚田百選)」や「静岡県景観賞」にも選ばれています。この棚田は、平安時代が起源とも言われ、とくに戦国時代に井伊氏(井伊直虎の祖父)の庇護のもと、開墾が進んだと考えられており、古い歴史と文化を有する棚田です。

しかし、最近の農家の後継者不足から耕作されなくなる棚田が多くなっています。棚田が荒れてくると、棚田の美しい景観が損なわれるだけでなく、土砂崩れの抑制や交流の場の創出などの「棚田の多面的機能」も発揮されなくなります。

【「引佐耕作隊」の活動】

引佐耕作隊は、およそ1～2週間に1度の頻度で田んぼに通い、田起こしから代掻き、水管理や施肥、除草、稲刈りや脱穀といった米作りの全ての工程を学生主体で行っています。また、収穫した米は、「棚田の多面的機能」をデザインしたパッケージに詰め、同学生協購買などで販売しています。加えて、納涼祭や収穫祭の手伝いや地元の自治会定例会への参加など、米作り以外の面でも久留女木の棚田、久留女木地区にかかわっています。今年度は、大量発生した雑草や田んぼの地割れなどの対処に苦戦しつつも、地域の方からアドバイスを頂きながら無事収穫することが出来ました。また、今年度はデザイン学部からも新入生が入隊し、作業以外にも、販売面で宣伝用のチラシ作成を担当してもらい、引佐耕作隊の活動に貢献してくれました。今後とも引佐耕作隊の活動も見守っていただけると幸いです。

※「久留女木 棚田の恵」の販売については、別紙資料（チラシ）をご覧ください。

<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 文化政策学部 文化政策学科 2 年 原理純
Tel. 090-1756-3100 / Email. g2312046@suac.ac.jp
(静岡文化芸術大学 地域連携室(福澤) Tel. 053-457-6113)

公式 Web サイト



引佐耕作隊
inasakousakutai

kurumeki;
久留女木
棚田の恵

2025. 1.20 (月) - 31 (金) 販売



一袋 500円 300g



大学生協購買にて販売

※売り切れ次第販売は終了します

こんにちは！わたしたちが引佐耕作隊です

久留女木の棚田は、浜松市浜名区引佐町の北部の山間部に位置します。「つなぐ棚田遺産」「静岡県景観賞」にも選ばれており、美しい景色が広がっています。しかし、その耕地の約6割は休耕田となっています。そこで静岡文化芸術大学の学生たちで2016年4月「引佐耕作隊」を結成し、地域の方々の協力のもと、お米作りに取り組んできました。人間が生きるために必要な糧を作り出してくれる棚田に感謝し、収穫されたお米を「久留女木 棚田の恵」と命名しました。是非、ご賞味ください。

静岡文化芸術大学「引佐耕作隊」一同



Instagram
@inasakousakutai



X (旧 Twitter)
@inasakousakutai



Facebook
引佐耕作隊

